

**別冊**

**長崎市立長崎商業高等学校の学科改編について**

**意見とりまとめ**

## 目次

1	はじめに	1
2	長崎商業高等学校の学科改編について	
	(1) 長崎商業高校および長崎市の現状と課題	1
	(2) 長崎商業高校で行うべき教育について	3
	(3) 長崎商業高校においてどのような学科が考えられるか	3
3	終わりに	5

## 参考資料

	審議経過	6
	長崎市立長崎商業高等学校学科改編審議会委員名簿	10
	事務局提示資料1 (長崎商業高校の現状と審議事項)	11
	事務局提示資料2 (スポーツと情報の専門学科の教育課程比較表)	12

## 1 はじめに

本審議会は、長崎市や長崎商業高校の現状を踏まえ、長崎商業高校の学科改編について検討するため、令和2年9月に11名の委員をもって発足した。

私達は、令和4年度から年次進行で新しい教育がはじまる、「学習指導要領の改訂に関する視点」と、「長崎市の未来を担う人材育成の視点」、これらの2つの視点を踏まえながら、審議を重ねた。

長崎商業高校が、これからも長崎市の未来を担う人材を輩出し続け、これまで以上に中学生に選ばれる魅力あふれる学校であり続けることを願い、この「意見のとりまとめ」を提出させていただく。

### 「学習指導要領の改訂に関する視点」

- ・経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目指した学科改編について

### 「長崎市の未来を担う人材育成の視点」

- ・若い世代の転出超過や新たな産業の創出の必要性などの長崎市の課題を踏まえ、長崎市の地域振興や新しい産業の創出など、長崎の未来を担う人材の育成を目指した学科改編について

## 2 長崎商業高校の学科改編について

### (1) 長崎商業高校および長崎市の現状と課題

#### ○長崎商業高校の現状

長崎商業高校の現状について、事務局から次の説明を受けた。

現在の「情報国際ビジネス科」の1学科における学科編成は平成16年度に始まり、情報国際ビジネス科においては、1年次は全員が基礎的科目を共通して履修し、2年次から4つの分野（流通・国際・会計・情報）と進学コースの5つの中から選択するしくみになっている。

入学した生徒は、主体的に自分が選択した分野・コースで学び、多くの資格<sup>※1</sup>を取得し、令和元年度は、全商<sup>※2</sup>3種目以上1級合格者が114名と、全国の1389校の商

業高校の中で22位という高い成果を取めている。令和元年度の卒業生は、約48%の生徒が就職し、約52%が4年生大学や専修学校へ進学している。就職した卒業生は、金融・保険、製造業、飲食業、医療関係など企業に、事務系の職員として採用されている。就職者全体の73%が長崎市内の企業等に就職しており、長崎市に多くの人材を輩出している現状がある。

また、ここ3カ年の公立高校入試において、長崎商業高校の志願倍率は平均1.2倍と、県立高校を含めた中でも安定した倍率を維持している。

さらに、部活動においても、体育会系、文化系ともに九州・全国レベルで活躍している部が多く、県内の公立高校の中でも、トップクラスの成績を取めている。

※1 資格は、就職だけではなく、推薦入学などの進学にも活用することができる。

※2 全商とは、全国商業高等学校協会主催検定の略称で、珠算・電卓実務、簿記実務、会計事務、情報処理など9種目の検定がある。全国の商業高校において、3種目以上で1級に合格するという、資格取得のひとつの目安がある。

## ○長崎市の現状とこれからの長崎商業高校に求められるもの

長崎市においては、若い世代の転出超過や、新たな産業の創出の必要性などの課題があり、長崎市の未来を担う人材の育成が求められている。唯一の長崎市立高等学校である長崎商業高校には、その課題を解決する人材を輩出する役割がこれまで以上に求められている。

令和4年度の入学生から年次進行となる学習指導要領商業編では、経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえた職業人の育成を目指した改善が図られている。これは、長崎市が、地域経済の活性化をめざして「交流の産業化」という目標を設定しIT企業の誘致などを進めていること、民間企業が、長崎スタジアムプロジェクトを立ち上げ、スポーツビジネス分野の可能性を広げようとしていることなど、このような長崎市の現状とも重なる部分が大いにある。こうした、学習指導要領の改訂に関する視点や、長崎市の未来を担う人材の育成の視点を踏まえた教育が長崎商業高校に求められる。

## (2) 長崎商業高校で行うべき教育について

前述の現状や課題を踏まえながら、長崎商業高校の生徒に身に付けさせたい資質・能力や、その資質・能力を身に付けるために行うべき教育について、意見をまとめた。

身に付けさせたい資質・能力	資質・能力を身に付けるために、長崎商業高校において行うべき教育
これからの郷土長崎を支える力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒自身が、社会的・職業的な自立をめざし、自らの学びや適性を自覚し、自己の個性を生かしながらキャリアを形成していく教育</li> <li>○長崎市の魅力を知り発信する活動を含めた教育</li> <li>○地域産業の健全で持続的な発展をふまえながら、長崎市の現状や課題の改善策を、主体的に探究する学びの場がある教育</li> <li>○長崎市では、IT分野や、スポーツビジネスの可能性を広げようとしている現状がある。その現状に対応した教育</li> <li>○長崎商業高校の魅力の一つに部活動があり、部活動で様々な力を身に付けようとしている生徒も多い。そういう個性を伸ばす教育</li> </ul>
商業の基本となる知識や技能（資格取得）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資格を多くの生徒が取得しているところは、長崎商業高校の大切にしたい伝統。こうした長崎商業高校の伝統を大切にする教育</li> <li>○「簿記」など、商業の基本となるものが身に付く教育</li> </ul>
英語力やコミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光都市として必要となる「英語力」が身に付く教育</li> <li>○生徒会や部活動など、様々な活動を通して、「コミュニケーション力」や「社会性」を育成する教育</li> </ul>

## (3) 長崎商業高校においてどのような学科が考えられるか

### ○学科改編の審議について

長崎市が、地域経済の活性化をめざして「交流の産業化」という目標を設定しIT企業の誘致などを進めていること、民間企業が、スポーツビジネス分野の可能性を広げようとしていることなど、議論してきた長崎市の現状や課題を踏まえ、スポーツビジネスや情報分野について、専門的に学ぶことができる学科を設置する必要性や、設置するうえでの課題などについて審議した。

スポーツビジネスや情報分野について審議するために、スポーツマネジメント科をす

でに設置している横浜市立横浜商業高校や高知市立高知商業高校と、情報科をすでに設置している長崎県立諫早商業高校の学習内容や進路先などの情報を参考にした。

また、新しい学科の設置について考える際には、(1)の「長崎商業高校および長崎市の現状と課題」、(2)の「長崎商業高校で行うべき教育」など、これまでの審議で出てきた意見を踏まえ議論した。

## ○審議の結果

伝統ある商業科としての学びを継承しつつ、その上で、商業科に加え、次の2つの学科を設置することについて検討していただきたい。

### ① スポーツビジネスに関する学科の設置について

スポーツビジネスやスポーツの専門分野について学ぶことができることは、部活動が活発で競技力の向上を目指す生徒が多い長崎商業高校の新たな魅力になる。

### ② 情報分野に関する学科の設置について

ICTの進歩を踏まえた、プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の習得や、情報通信ネットワークの構築やセキュリティに関する学習など、新しい学習指導要領において重点化が図られている分野の学びを採り入れることで、IT企業の誘致等に力を入れている長崎市の現状に対応することができる。

情報分野を専門的に学びたい生徒に対して、情報分野の専門的な資格の取得や、新たな進路先の門戸を広げることが可能となる。

①、②のとおり、2つの新しい学科の設置については、長崎市が地域経済の活性化をめざしてIT企業の誘致を進めていることや、民間企業が、スポーツビジネス分野の可能性を広げようとしていることなどから、長崎商業高校の新たな魅力となる可能性が高い。

## (4) その他の意見

○現在の学科編成において、生徒が入学後に主体的に希望する分野・コースを選ぶことができることは、長崎商業高校の魅力の一つでもある。そうした現在の良さは継承してほしい。

○中学生や保護者に対して、新しい学科のねらいや進路先などについての広報をしっかりと行うこと。中学生が主体的に自分の進路を選択し、明確な目的をもって高校3年間を過ごすことができるようにしてほしい。

○新しい学科を設置する上で、専門科目を担当する人材の確保が厳しい状況がある。現場の教職員に無理な負担がかからないように十分な準備期間を設け、人材を確保することができた段階で、新学科の設置をするなど柔軟な対応をしてほしい。

○長崎商業高校の生徒に「ふるさと長崎を知り、ふるさと長崎を愛する気持ち」を育て、「明確な目的意識をもって日々の学びに向かう」ための、長崎商業高校独自のキャリア教育プログラムについて検討してほしい。

○高校を卒業して就職したいという生徒が、長崎商業高校に進学している傾向もある。新しい学科を設置した場合も、就職先をしっかりと確保してほしい。

○現在、長崎商業高校は3年生で「課題研究」を行っているが、2年生で「課題研究」を行い、3年生で更に学びを深めるようにした方がよいのではないか。

※ 「課題研究」とは、ビジネスに関する課題を発見し、解決策を探究して創造的に解決するなどの活動を通して、経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質・能力を一層高めることをねらいとして設定されている科目である。

○新しい学科や分野・コースの名称については、小中学生や保護者、長崎市民に学ぶ内容が伝わりやすい名称を検討してほしい。そのとき、スポーツビジネスに関する学科は、商業の中の学科であること、情報分野の学科は、商業とは別の学科であることを明確に示すことも必要である。

### 3 終わりに

審議会の中では、創立135周年を迎えた伝統校として継承していかなければならないもの、時代の潮流の中で変えていく必要があるものを踏まえながら議論してきた。長崎商業高校の教育目的の第一に、学校スローガン「郷土を担い、未来にはばたく人づくり」が示す、長崎市の発展に寄与する産業人材の育成がある。長崎市が進めているIT企業の誘致のみならず、民間企業が新たに起こそうとしているスポーツ関連産業など、近い将来、これまでになかった産業が、長崎市に創出される。

長崎市立の唯一の高校として、これまでの産業に加え、これからの産業を支え発展に導くための知識・技術・マネジメント力やコミュニケーション力等を身に付けさせるとともに、郷土長崎市への強く熱い思いをもつ人材を育成する使命がある。

本審議会としては、伝統ある商業科としての学びを継承しつつ、情報分野やスポーツビジネスに関する分野等の専門性の高い新しい学びを取り入れていくことが、これからの長崎商業高校の教育力と魅力を高め、ひいては長崎市の地域経済活性化に繋ぐことができるものと考えている。

## 審議経過

### 第1回審議会 令和2年9月18日

#### 【議題】長崎商業の現状について

##### (1) 事務局の説明

- ・ 審議会の公開・非公開について
- ・ 長崎商業高校の沿革・現状
- ・ 審議事項・審議の流れ
- ・ 審議の2つの視点  
「新しい学習指導要領の改訂に関する視点」「長崎市の未来を担う人材育成の視点」
- ・ 新学習指導要領商業編の内容について
- ・ 新学科の可能性、スポーツと情報の専門学科・コースについて

##### (2) 委員の質問や意見

- ・ 15年前に3学科を1学科にした経緯、それをどう評価しているのか。
- ・ 入学した生徒にどのような進路保障ができるのかが大切である。
- ・ 新しい学科を設置するときには、教える教員の確保も併せて考える必要がある。
- ・ 故郷長崎について学ぶ機会を取り入れてほしい。
- ・ 長崎県はICTの先進県を目指しており、長崎市において情報の専門分野を学ぶ必要性は高い。

### 第2回審議会 令和2年10月6日

#### 【議題】長崎商業高校の生徒たちに身に付けてほしい資質・能力、そのためにどのような教育を行うべきか

##### (1) 前回の質問に対する事務局の回答

- ・ 平成15年度までは「商業科」「国際経済科」「情報処理科」の3学科、平成16年度から「情報国際ビジネス科」の1学科となった。
- ・ 「情報国際ビジネス科」では、1年次は全員が共通科目を学び、2年次から希望する分野・コースに分かれる。生徒が主体的に選択できる制度であり高く評価している。

##### (2) 資質・能力についての意見

- ・ 地元のことに関心を持ち主体的に学ぶことができる人材が望まれる。
- ・ 「長崎検定」などを取り入れて地元を愛する気持ちを育成してほしい。
- ・ 長商は部活動が盛ん、部活動で様々な力を身に付けた生徒は、就職先でも活躍できる人材である。そうした強みをもつ生徒が増えてほしい。
- ・ 就職、転職のときに、資格を持っていることが有効。
- ・ 生徒会や様々な活動を通して「コミュニケーション能力」や「社会性」を身に付けてほしい。

##### (3) 行うべき教育についての意見

- ・ 長崎を愛して、長崎に観光客が来てほしいとか、長崎にこんな良いところがあると



心から思うことができる教育を取り入れてほしい。

- ・自ら学び自ら考える教育の転換が叫ばれている。「生きる力」の育成という視点を大切にしたい。
- ・地域や企業と繋がりながら、長崎の現状や課題に対して、主体的に解決を図るような学びの場を設定してほしい。
- ・長崎商業高校の伝統をベースに、観光、グローバル、ICT、スポーツなどを組み立て、地域貢献できる人材を育成してほしい。
- ・「簿記」など、商業の基礎をしっかりとやるという原点を大切にしてほしい。
- ・長崎市において、IT分野やスポーツビジネスを盛り上げようとしている現状があり、そうした現状に応じた教育も大切である。

### 第3回審議会 令和2年10月20日

#### 【議題】長崎商業高校においてどのような学科が考えられるか

- (1) (株)リージョナルクリエーション長崎の説明
  - ・民間主導の地域創生事業（スタジアムシティ構想）について
  - ・スポーツビジネスについて
  - ・求める人材について
- (2) 事務局から、商業科にスポーツの専門分野や情報の専門分野について学ぶ学科やコースを加えた学科改編（案）を提示
- (3) 議題についての意見・質問
  - ・(株)リージョナルクリエーション長崎の話聞いて、スポーツビジネスの可能性をすごく感じた。スポーツビジネスについて学ぶことは、これまでにない長崎商業高校の新たな魅力になる。
  - ・長崎県や長崎市がIT企業の誘致を積極的に進めていることもあるが、情報セキュリティなど情報の専門分野を学ぶ学科は、現在、社会的にもニーズが高い。
  - ・スポーツの専門学科や情報の専門学科の設置には賛成だが、それを教える人材の確保が重要。情報分野の人材確保は厳しい状況もある。
  - ・現状の1学科の良さもある。受検生の中には自分の進路を明確にもつことができていない生徒もいるため、1年次は共通科目と学び、2年次から、スポーツや情報の専門分野を含めた分野・コースを選択できるようにした方がよい。
  - ・社会の変化を見ながら、学校のキャリア教育プログラムをつくらないと、高校における教育内容と、この時代に求められている教育の間にミスマッチが出てくるのではないか。
  - ・情報科のある諫早商業高校、情報技術科のある長崎工業高校、スポーツマネジメント科のある高知商業高校や横浜商業高校のカリキュラムと、現在の長崎商業高校のカリキュラムが比較できるものを示してほしい。情報科やスポーツマネジメント科で何をするのか、長崎商業高校との違いは何かなど、具体的に考える必要がある。

#### 第4回審議会 令和2年11月10日

##### 【議題】 審議会の意見とりまとめ（案）について

- (1) 前回の質問について、それぞれの高校のカリキュラムを比較した表を示しながら、それぞれの違いや共通点などを事務局が説明
- (2) 事務局の説明に対する意見
  - ・商業科の情報システムは、ソフトウェア活用のプロを目指し、諫早商業高校の情報科はシステム開発のプロを目指すという違いがわかった。IT産業での、進路先や就職先の選択において、ITパスポートや基本情報技術者の資格取得が必要であることがわかった。
  - ・スポーツの専門学科を設置する場合、アスリート養成という面が強くなるが、あくまでも商業科の中のスポーツ専門学科として、商業の資格取得も大切にしてほしい。
  - ・スポーツが得意だからスポーツビジネスに興味があるとは限らず、また、逆もあり得る。スポーツが得意ではないがスポーツビジネスに興味のある生徒も対象とすること。
  - ・諫早商業高校において、工学部に進学しているなど、進路の選択肢が広いことに驚いた。長崎商業高校も、選択肢を広げてほしい。
  - ・情報の専門学科の設置には賛成だが、商業高校の中の情報の専門学科として、「簿記」など商業の基本的な内容を取り入れてほしい。
  - ・スポーツや情報の専門学科を新設する場合は、高校3年間の学びや、卒業するときの進路先について、小中学生や保護者に明確に示すことが必要である。
- (3) 議題に対する意見
  - ・「資格」や「全商3種目」など説明が必要なところには（注）をつけること。
  - ・「資質・能力」と「長崎商業高校で行うべき教育」は対応する形で示すこと。
  - ・長崎商業高校の学科改編についての決定は、長崎市教育委員会がすることであり、本審議会は、その前段として、こういう考えや意見があるということを示す場である。
  - ・審議会の意見とりまとめは、今後、現場の先生方の意見を聞く部分もしっかりと残してほしい。
  - ・学科改編をすることによって、それがどのように長崎の課題解決につながるのか、これから求められる学校教育の在り方、それから、将来を担う人材の育成に繋がるというようなまとめの言葉が必要である。

#### 第5回審議会 令和2年12月15日

##### 【議題】 審議会の意見とりまとめについて

- (1) 第4回審議会における各委員の意見を踏まえて修正した審議会の意見とりまとめ（案）について、事務局が説明した。
- (2) 事務局の説明に対する意見
  - ・長崎商業高校が行うべき教育をまとめた表について、身に付けさせたい資質・能力と

そのために行うべき教育は、審議委員が特に求めたいものを優先して先に記述すること。また、その内容について、長崎の郷土愛の育成に特化した学校めざすという印象を与えてしまう。個人の自己形成能力・キャリアプランニング能力を高めるような教育も含まれるべき。

- ・審議の結果について、「学習指導要領の改訂に関する視点」と「長崎市の未来を担う人材育成の視点」を踏まえて意見を出し合ったことがわかるようにするべき。

(3) 「意見とりまとめ」の決定

- ・本日議論した内容を修正したものを審議会の「意見とりまとめ」として1月に長崎市教育長に提出することを、出席委員全員の賛成をもって決定した。

## 長崎市立長崎商業高等学校学科改編審議会委員名簿

任期 委嘱又は任命の日から令和3年3月31日まで

氏 名	役 職 名 等
平岡 透	長崎県立大学教授 情報システム学部長
本田 道明	長崎県立大学特任教授
長谷川 哲朗	長崎大学教育学部教授
丸山 真純	長崎大学経済学部准教授
中川 良平	長崎商業高等学校同窓会事務局長
長尾 能博	長崎市立琴海中学校長
渡邊 潤	長崎商業高等学校保護者会長
村木 昭一郎	(一社) 長崎国際観光コンベンション協会会長
鈴木 智仁	(株) デンソーウェーブ 長崎ソリューション開発センター主任
仲田 留奈	(一社) 長崎青年会議所副理事長
野口 美砂子	NPO法人インフィニティー代表

計11名

長崎商業高校の現状について

○設置学科・定員

情報国際ビジネス科 240名 (平成16年度入学生から)

※令和2年度生徒数 707名(男子100名 女子607名)

○学科の状況

- ・1年次は、分野・コースに分かれずに全生徒が同じ学習を行う。
- ・2年次からは4分野・1コースに分かれ、将来に結びつくスキルの習得を図る。
- ・2年生に進級する際に、生徒の希望に応じて分野・コースを選択する。

分野・コース	2年生 (割合%)	3年生 (割合%)
流通ビジネス	63人 (26.6)	78人 (32.9)
会計ビジネス	61人 (25.7)	46人 (19.4)
情報ビジネス	35人 (14.8)	32人 (13.5)
国際ビジネス	36人 (15.2)	41人 (17.3)
進学コース	42人 (17.7)	40人 (16.9)

※令和元年度の状況

○入試倍率について

- ・令和2年度入試は、定員240名に対して、志願者237名 (1.0倍で3名の定員割れ)
- ・過去3ヶ年の長崎商業の倍率の推移

年度	学科名	募集定員	推薦内定者	学力定員	志願者数			志願倍率
					男	女	計	
平成30年度	情報国際ビジネス	240	89	151	20	167	187	1.2
平成31年度	情報国際ビジネス	240	89	151	31	176	207	1.4
令和2年度	情報国際ビジネス	240	89	151	14	134	148	1

参考)令和2年度入試の他校志願倍率 ※高原商・諫早商は基本情報技術者(国家試験)取得可能学科設置校

学校名	学科名	募集定員	推薦内定者	学力定員	志願者数			志願倍率
					男	女	計	
佐世保商業	会計ビジネス	80	24	56	7	40	47	0.8
	情報マーケティング	80	25	55	16	48	64	1.2
	国際コミュニケーション	40	16	24	4	23	27	1
高原商業	商業	40	10	30	6	8	14	0.5
	情報処理	40	11	29	14	14	28	1
	家政	40	18	22	0	24	24	1.1
諫早商業	商業	160	44	116	40	59	99	0.9
	情報	40	14	26	28	13	41	1.6
	国際コミュニケーション	40	16	24	2	15	17	0.7

○長崎商業高校の進路状況(令和元年度卒業生 235名)

- [就職] 就職者計 111名 (47.2% 公務員5名含む)
- ・県内就職 98名 (長崎市内 81名 就職者全体の73.0%)・県外就職 13名
- [進学] 進学者計 122名 (51.9%)
- ・大学進学 59名 ・短大進学 5名 ・専修学校 58名
- [自営・その他] 2名 (0.9%)

現状を踏まえて、長崎市の求める人材づくり、中学生に選ばれる魅力的な進路先への学科改編

学習指導要領の改訂について

○高等学校については、令和4年度から年次進行により新指導要領での教育が始まる。

○商業に関する改善・充実のポイントについて

経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するための改善が図られている。

[八つの改訂の要点]

- ①観光の振興に取り組む態度の育成
- ②ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実
- ③マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得
- ④ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実
- ⑤経済のグローバル化に関する学習の充実
- ⑥情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実
- ⑦プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得
- ⑧情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化

新学習指導要領商業科の改訂の趣旨に対応した学科改編



長崎商業高校学科改編の方向性としての審議事項

○学習指導要領の改訂に関する視点

・経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目指した学科改編について

○長崎市の未来を担う人材育成の視点

・若い世代の転出超過や新たな産業の創出の必要性などの長崎市の課題を踏まえ、長崎市の地域振興や新しい産業の創出など、長崎の未来を担う人材の育成を目指した学科改編について

令和2年度のスケジュール

- ① 令和2年5月定例教育委員会 議会議案の提示
- ② 令和2年6月市議会定例会 条例審議
- ③ 条例制定後 審議委員の選定
- ④ 令和2年7月～12月 審議会(5回)
- ⑤ 令和2年12月定例教育委員会 報告・確認
- ⑥ 令和3年3月 新学科の決定

事務局提示資料2 (スポーツと情報の専門学科の教育課比較表)

長崎市立長崎商業高等学校  
流通ビジネスコースを選択した場合

横浜市立横浜商業高等学校  
スポーツマネジメント科(39名) 54名受検 1.38倍

高知市立高知商業高等学校  
スポーツマネジメント科(35名) 41名受検 1.17倍

単位	1年	2年	3年	単位	1年	2年	3年	単位	1年	2年	3年
1				1				1			
2	国語総合	現代文B	現代文B	2	国語総合	現代文B	現代文B	2	国語総合	現代文B	現代文B
3				3				3			
4	地理A	古典A	古典A	4	現代社会	世界史A	国語表現・古典A・現代評論研究から選択	4	国語総合	現代文B	現代文B
5		現代社会		5				5	世界史A	日本史A	国語表現
6	数学I	数学II	世界史B	6	数学I	数学A	日本史A	6	世界史A	現代社会	公民演習
7		数学A		7		物理基礎・化学基礎から選択	政治経済・数学IA研究から選択	7	数学I	数学A	数学演習
8	科学と人間生活	生物基礎	数学II	8	科学と人間生活	体育	体育	8	科学と人間生活	生物基礎	化学基礎
9		体育	生物基礎・化学基礎から選択	9	体育	保健	保健	9	体育	体育	体育
10	体育	体育	体育	10	コミュニケーション英語I	音楽I・美術I・書道Iから選択	コミュニケーション英語II	10	保健	音楽I・美術I・書道Iから選択	コミュニケーション英語II
11	保健	家庭基礎	コミュニケーション英語II	11	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	11	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II
12	音楽・美術・書道から選択		英語会話	12	スポーツ科学I	家庭基礎	スポーツ科学III	12	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II
13				13	スポーツ実技	スポーツ科学II	総合実践	13	スポーツマネジメントI	家庭総合	家庭総合
14	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	課題研究	14	ビジネス基礎	スポーツ実技	電子商取引	14	スポーツマネジメントII	スポーツマネジメントIII	スポーツマネジメントIII
15				15				15	ビジネス基礎	課題研究	課題研究
16	ビジネス基礎	マーケティング	総合実践	16	簿記	財務会計I	スポーツマーケティング	16	簿記	マーケティング	マーケティング
17		財務会計I	商品開発・広告と販売促進から選択	17	簿記	財務会計I	スポーツマーケティング	17	簿記	マーケティング	マーケティング
18		原価計算	ビジネス経済・経済活動と法から選択	18	情報処理	ビジネス情報	ビジネス経済応用・経済活動と法から選択	18	簿記	マーケティング	マーケティング
19				19	情報処理	課題研究	YSMプログラム	19	情報処理	ビジネス情報	ビジネス情報
20				20	YSMプログラム			20	情報処理	ビジネス情報	ビジネス情報
21				21	LHR	LHR	LHR	21	LHR	LHR	LHR
22				22	LHR	LHR	LHR	22	LHR	LHR	LHR
23				23	LHR	LHR	LHR	23	LHR	LHR	LHR
24				24	LHR	LHR	LHR	24	LHR	LHR	LHR
25				25	LHR	LHR	LHR	25	LHR	LHR	LHR
26				26	LHR	LHR	LHR	26	LHR	LHR	LHR
27				27	LHR	LHR	LHR	27	LHR	LHR	LHR
28				28	LHR	LHR	LHR	28	LHR	LHR	LHR
29				29	LHR	LHR	LHR	29	LHR	LHR	LHR
30				30	LHR	LHR	LHR	30	LHR	LHR	LHR

(資格)  
全商簿記1級、全商商業経済1・2級  
全商情報処理1級(ビジネス情報部門)、全商ビジネス文書  
日商販売士、日商簿記、秘書検定

(資格)  
全商簿記実務検定1級  
全商珠算・電卓検定1級  
全商ビジネス文書実務検定1級  
全商情報処理検定ビジネス情報部門1級  
全商商業経済検定1・2級

(資格)  
全商簿記2級、全商商業経済検定1級  
全商ビジネス文書実務検定1級  
全商電卓検定2級  
全商情報処理検定3級

(科目内容)  
スポーツ科学I・II・III  
運動生理学・解剖学・栄養学・トレーニング理論

(科目内容)  
スポーツマネジメント  
トレーニング理論、コーチング理論  
指導者育成のためのスポーツ理論全般

スポーツ実技  
スポーツ科学で学習した内容を実践

(進路)別紙資料参照  
大学・短大進学 19名  
専門学校 7名  
就職 7名

スポーツマーケティング  
スポーツに関するマーケティングに特化した内容を活動的、実践的に学習

YSMプログラム  
スポーツマネジメント科の「総合的な探究の時間」  
将来を考えるキャリア教育や、スポーツにかかわる問題の解決を実践的に学習

総合実践  
商業の各分野で学習した知識や思考力などをイベントの企画、立案やオリジナルグッズ開発などの取り組みを通して、実践的、実務的な能力を身に付ける  
スポーツビジネス業界の方を招いて講演

(横浜商進路)  
大学・短大 28名  
専門学校 8名  
公務員 2名  
民間就職 1名

長崎市立長崎商業高等学校  
情報ビジネスコースを選択した場合

長崎県立諫早商業高等学校  
情報科(40名) 昨年度志願倍率 1.6倍

長崎県立  
長崎工業情報技術科 昨年度志願倍率 2.4倍

単位	1年	2年	3年	単位	1年	2年	3年	単位	1年	2年	3年	
1	国語総合	現代文B	現代文B	1	国語総合	総合国語	現代文B	1	国語総合	現代文B	現代文B	
2				2				2				
3				3				3				
4	地理A	古典A	古典A	4	世界史A	現代社会	地理A	4	地理A	現代社会	世界史A	
5		現代社会	世界史B	5				5				
6	数学I	数学II	世界史B	6	数学I	数学A	数学II	6	数学I	数学II	数学A	
7				7				7				
8				8				8				
9	科学と人間生活	生物基礎	数学II	9	科学と人間生活	物理基礎・化学基礎から選択	体育	9	科学と人間生活	体育	体育	
10				10		10						
11	体育	体育	生物基礎	11	体育	保健	音楽I	11	物理基礎	保健	体育	
12				12				12				
13				13				13				
14	保健	保健	体育	14	保健	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	14	体育	コミュニケーション英語II	コミュニケーション英語II	
15	音楽・美術・書道から 選択	家庭基礎	コミュニケーション英語II	15				15				15
16				16	16							
17	コミュニケーション英語I	コミュニケーション英語II	英語会話	17	コミュニケーション英語I	家庭総合	家庭総合	17	美術I	家庭基礎	課題研究	
18				18				18				
19	ビジネス基礎	財務会計I	課題研究	19	情報産業と社会	情報テクノロジー	物理・簿記から選択	19	コミュニケーション英語I	情報技術演習	情報技術演習	
20				20				20				
21				21				21				
22	簿記	原価計算	総合実践	22	情報テクノロジー	ネットワークシステム	課題研究	22	工業技術基礎	電子回路	通信技術	
23				23				23				
24				24				24				
25	情報処理	ビジネス情報	アルゴリズム概論	プログラミング	マルチメディア実論	情報システム演習	情報システム演習・表現メディアの編集と表現から選択	25	電気基礎	コンピュータシステム技術	ハードウェア技術	
26								26				26
27								27				27
28	LHR	LHR	LHR	28	LHR	LHR	LHR	28	プログラミング基礎	電気基礎・プログラミング基礎から選択	情報技術製図・ソフトウェア技術から選択	
29				29				29				
30	LHR	LHR	LHR	30	LHR	LHR	LHR	30	LHR	LHR	LHR	

情報システム系 マルチメディア系 情報システム系 マルチメディア系

(資格)  
ITパスポート(経済産業省)、全商情報処理1・2級(プログラミング部門)  
全商情報処理1級(ビジネス情報部門)、全商簿記1級  
※希望により基本情報技術者(経済産業省)

(資格) 令和元年度実績  
ITパスポート試験(8名)、基本情報技術者試験(13名)  
情報セキュリティスペシャリスト(1名)  
マイクロソフトオフィススペシャリスト試験  
Exel(7名)、Word(7名)、Power point(2名)  
日本商工会議所簿記検定3級(25名)  
全国商業高等学校協会主催検定1級  
4種目(2名) 3種目(12名)  
ビジネスマイスター長崎ゴールド認定22名

(資格)  
基本情報処理技術者、ITパスポート  
応用情報技術者  
工事担任者  
第2種電気工事士